東京都小学校道徳教育研究会　　令和8年10月23日

都小道研だより　第7号

～ 研究は厳しく、人間関係は温かく ～　　会長 星 野 典 靖

1 はじめに

令和8年10月5日の教育課程部会において、次期学習指導要領の基本的な方向性や各教科等の改善事項等の全体像を整理した「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」が取りまとめられました。

次期学習指導要領では、現行の道徳教育の理念を継承し、「考え、議論する道徳」の実装を通して、道徳教育の質の向上を目指すために、三つの方向性から改善を図ることが示されました。

三つの方向性とは、「①道徳的課題を自分事として捉え、多様な他者と考え、議論する『深さ志向』」、「②子供の多様性を尊重し、学校や教師の創意工夫を生かす『多様性志向』」、「③各教科等や家庭・地域社会との連携を通して、道徳科の学びを実生活における道徳的実践につなげる『連携志向』」です。これらは、全体が相互補完的かつ一体的に、「『考え、議論する道徳』の実装」につながります。

このことを踏まえながら、児童の道徳性を養う教育活動をより一層充実させるとともに、ウェルビーイングの実現にもつなげていけるような研究を推進していきましょう。

2 北海道で学んだこと

10月1、2日と北海道札幌市で開催された「第78回全国連合小学校長会研究協議会北海道大会」に参加してきました。

全体会では、田村 学 氏（文部科学省 初等中等教育局 主任視学官）による 「次期学習指導要領改定の方向性とこれからの学校教育・学校経営のあり方について」の講演、 前澤 健 氏（株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント 代表取締役社長）による「既成概念の脱却への挑戦 ～非連続の成長の先にあるものは～」の講演を拝聴しました。

分科会では、「教育課程領域 豊かな人間性」の分科会に参加し、長野県小諸市校長会と北海道留萌管内校長会の発表を拝聴しました。それを踏まえ、他道府県の校長との意見交流を通して分科会の提言について考えを深めました。そして、道徳教育の推進に向け、「①安心して語り合える学校文化をつくること」「②価値を実感する体験を教育課程に組み込むこと」「③校長が理念を示し、組織を動かすこと」の三点が分科会の提言としてまとめられました。

10月2日の午後は、東京都の人権課題の一つである「アイヌの人々」の歴史や伝統、文化を学ぶために北海道白老町にある「ウポポイ（民族共生象徴空間）」を見学しました。「ウポポイ」は先住民族であるアイヌの歴史や文化を学び伝えるためのナショナルセンターです。「国立アイヌ民族博物館」ではアイヌの歴史・暮らし・世界観を学びました。「国立民族共生公園」では、伝統芸能（歌、踊り、楽器演奏）や弓による狩猟体験に触れました。そして、北海道を中心とした地域に古くから住んでいるアイヌの人々が、自然の豊かな恵みを受けて独自の生活と文化を築き上げていたことを改めて感じました。

また、アイヌの人たちは、自分たちが暮らす土地にある動植物、道具類だけでなく、地震や津波、流行病など様々なものに「霊魂」が宿っていると考えてきました。中でも、人間にとって重要な働きをするもの、強い影響があるもの、人間の力が及ばないものなどを「カムイ（神）」と呼んでいました。そして、「カムイ」が自然界のあらゆるものに宿ると考え、自然や他者と共生する倫理観を育んできました。

挨拶や感謝の心、自然への畏敬の念、協調性など、命あるもの全てを尊ぶアイヌの生き方の基盤は、道徳教育の理念と相通ずるものがあると強く感じました。

みなさんも、機会がありましたら、ぜひウポポイを訪れてみてはいかがでしょう。